

# 舟窪古墳群探訪記

(記述内容は主に『諏訪形誌』33ページから引用し、一部加筆修正しました)

## 1 舟窪古墳群とは

「舟窪古墳群」は上田地方における典型的な「群集墳」として、重要な古墳群です。

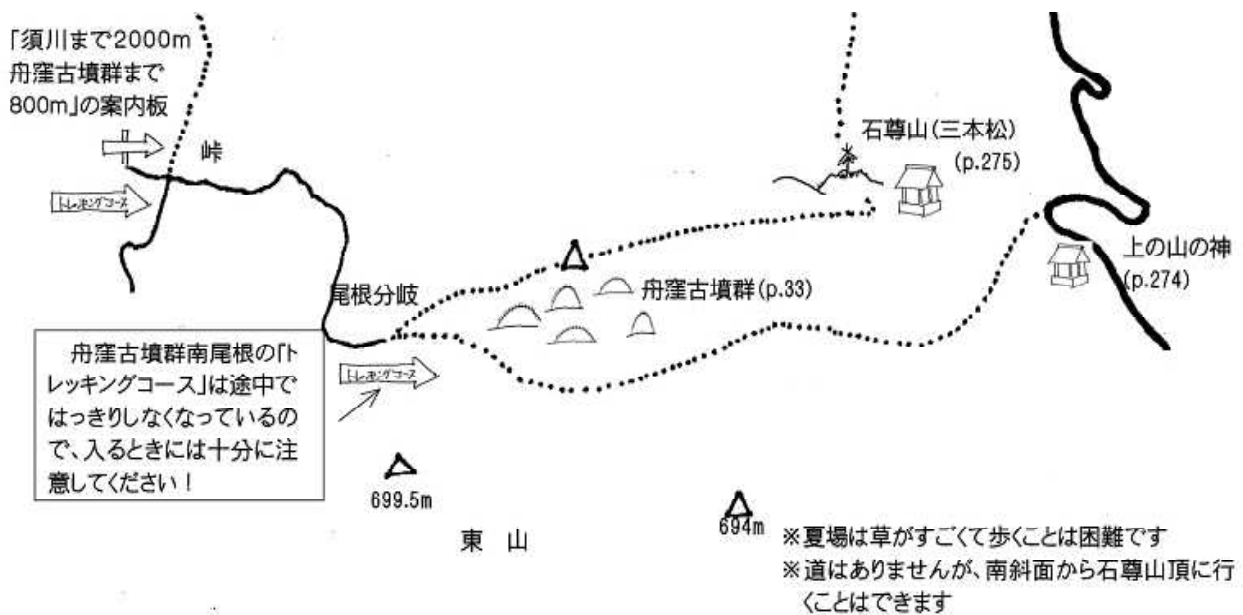
「石尊山」通称「三本松」の尾根とその南側の尾根との間に窪地があります。ここは地元で「扇平」または「舟窪」と呼ばれている場所です。この「舟窪」地籍の北側の尾根に、5基の古墳(円墳)がほぼ等高線に沿って等間隔で並んでいます。

これらの古墳は1974(昭和49)年と1975(昭和50)年に上田女子短大の手によって調査が行われ、西側から第1号古墳、第2号古墳…第5号古墳と命名されています。これらの古墳は、石室の形や規模、出土遺物の特徴などから、7世紀後半、古墳時代の終わりの築造と考えられています。

「舟窪」地籍は人里からはやや離れた、狭隘な場所です。このような場所にどこからどうやって古墳を構成する大きな石を数多く運び込むことができたのかはわかりませんが、たいへんな作業だったことは想像できます。それ故に、どのような人の墳墓だったのかということも気にかかることではありますが、「地域の有力者だったろう」ということ以外はわかりません。

## 2 舟窪古墳群の場所

この舟窪一帯はかつては上田藩の御料林だったところで、災害などの時などには工事用として立木を伐採して村々に分配されていました。また、江戸時代から明治初期ころまでは「博打穴」「盗人穴」などと呼ばれていたことから、残念ながらこの時期に古墳の盗掘が進んでしまったものと思われます。



『諏訪形誌』web版「諏訪形誌を歩く」より

『諏訪形誌』33ページでは「県道上田・塩川線須川へ向かう途中にある産業廃棄物処理場右側の林道を500メートルくらい入った地籍」と紹介されています。県道上田塩川線沿い「上の山の神」のすぐ下から沢沿いに「舟窪」に入り、原峠方面に抜けていくことは可能ですが、道はかなり荒れています。特に夏場は背の高い草に覆われていて、入っていくことはかなり困難です。

御所のセブンイレブン前の信号から南に急坂(旧道)を上り、原峠保養園の門の前から南東寄りの山道に入ってさらにしばらく上ると「原峠」に出ます。ここに右の写真の「舟窪古墳群まで800m」の掲示があり、それにしたがって林道を東に進みます。余談ですが、この場所が御所の「一丁目一番地である」と書かれた案内板があります。

ここから約700mほどの坂道を登り切ると、「尾根分岐」です。トレッキングコースはここから南側の尾根に続いています。この場所に「舟窪古墳群100m」の小さな掲示があります。その表示にしたがってやや下り気味に少し東に進むと、左側(北側)の斜面に「舟窪古墳群」の標柱と案内板があります。上記の「上の山の神」から「尾根分岐」までは1kmほどです。





←「尾根分岐」はこんな感じです。

なお、通称「殺人坂」を上ってそのまま直進し、ボーイスカウトのキャンプ場前を過ぎて、少し上ったところに西に向かう林道があります。この道をたどっていくと御所のセブンイレブンから上ってくる道と合流し、ここを左に折れると原峠保養園の正門前に出ます。気持ちの良い山道で、散歩している人も見られます。

### 3 舟窪古墳群に行ってみた

2022年10月24日、「舟窪古墳群」を訪ねました。前述のとおり、古墳には西側から番号がふられていて、第1号古墳と第2号古墳の間に、右の写真のような上田市教育委員会による標柱と案内板が設置されています。



#### (1) 第1号古墳

古墳群の西端に築かれていて、1974（昭和49）年に上田女子短期大学によって発掘調査が行われました。規模は東西9.5m、南北10.5m、高さ1.5～3.5m、両袖型の横穴式で、玄室の天井石が一枚なくなって羨道の天井石が崩落していた以外、保存状態は良好のようでした。玄室内からはメノウ製の勾玉（まがたま）8個、水晶製切り子玉8個が出土しました。また、土師器、須恵器の椀や壺の破片などと、取手が付いた坏蓋（つきふた）1個も見つかっています。



棺を納める玄室は奥行2.5m、幅1.4mで、基礎には自然石の平石（ひらいし）を用いています。また、その上部には自然石を小口積（こぐちづ）みにしています（一部「上田市マルチメディアセンター」の資料による）。

#### (2) 第2号古墳



第1号古墳から東側約15mの場所に第2号古墳があります。土盛の円墳で、その規模は東西南北とも直径10m、高さ1.0～3.3mで、第1号古墳とほぼ同じといえます。石室は両袖型の横穴式です。この古墳も1975（昭和50）年に、上田女子短期大学によって発掘調査が行われました。

第2号古墳が第1号古墳と異なる点は、羨門（せんもん）の手前におよそ1.6m四方の前庭部を持っていることです。「羨門」とは、お墓の前で祭祀をするための施設で、全国的多くの古墳に見られますが、上田地方には例のない貴重なものとされています。残念ながら盗掘の被害を受けていて、出土遺物は土師器のたぐいのものが数点あるのみです。

#### (3) 第3号古墳～第5号古墳

第2号古墳の東側約18mほど離れた場所に第3号墳、さらに東へ第4号古墳、第5号古墳と続いています。3つの古墳とも発掘調査はされていないとのことですが、天井石が失われていて、石室内部は見る事ができません。第4号古墳は特に傷みが激しく、その構造がはっきりしません。



第3号古墳



第4号古墳



第5号古墳